湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学薬学部　医療薬学科

教授　東山　公男

2026 年 4 月 17 日

1. 教育の責任

私は、2021 年 4 月に本学の開学とともに赴任し、薬学基礎科目の中で、化学系の科目として、2 年次に有機化学Ⅰ（必須)、および有機化学Ⅱ（必須）を単独で開講している。さらに学生実習では、1 年次の化学系実習及び 2 年次の有機化学実習も担当している。有機化学Ⅰ,Ⅱは講義形式で行い、薬学教育の基礎となる有機化学の知識の修得を目指し、構造式の表し方や化合物の命名法等基本的なルールから始まり、様々な反応についての解説を行っている。また、学生実習では、実験を通して、座学で学んだ知識の定着を図ることを修得目標としている。

薬学は「薬」を科学する分野であり、薬の多くが有機化合物であることから、有機化学の知識が薬学を学ぶ重要な基礎となる。このような観点から、正しい有機化学の知識を身につけ社会に送り出すことが重要だと考えている。本学学生が薬剤師として社会に貢献で来るような人材育成教育が私の責任と考える。

2. 私の理念･目的

1) 私の理念

私が最も大切にしている教育の理念は、「医療人として社会に貢献できる人材育成のための教育」である。私が現在担当している有機化学系の科目や、指導している学生実習が、将来の業務に直接的に役に立つということは多くはないと思う。しかし、それらを教授する過程で「論理的な思考力」「自主性」「コミュニケーション能力」を身に着けさせることが最も重要であると考える。ところが、本学学生の学習等への取り組みを見ると、学習習慣がない者、自分自身で限界を作り伸びようとしない者、やり遂げる力が低い者が多いと感ずる。そこで、個々の学生にあった言葉がけや指導を通して、学生の意欲・能力等を伸ばし行くことも重要であると考えている。

私が教育を通して学生に伝えたいことは、自分自身の決断や選択に責任を持つこと、与えられるのを待つのではなく能動的に働きかけること、自分自身に期待し、成長する喜びを感じることである。これらは、将来の医療人として成功につながると確信している。私が学生に臨むことは、自ら課題を見つけ、自ら考え、判断し、行動し、より良く問題を解決できる人間になって欲しいことである。

2) 理念をもつに至った背景

私は、前職を含めて薬学教育に 45 年以上携わってきた。その中で大学は、本来、学問の自由と教育の自立性が保障されるべきところであると考えているが、免許資格に係る領域では、こうした教授内容がさまざまな形で規定されている。特に薬学領域では、学ばねばならない知識や態度が極めて多いことに起因して、時には伝えるべき内容を単に注入するだけとなってしまう現状がある。しかし、薬学を含めた医療人を育成する大学において最も大切なことは、たとえ教授内容

が規定されていても、その教授内容の中で、自分の見解を述べ、同時に学生自身が考える機会を作らなければならないとことであると思う。中でも医療人としての自覚を促すのとが最も大切なことあると考えてきた。

一方、学生の側に目をやると、多くの学生が与えられたことをこなすのみで、自ら積極的に考え物事に取り組む姿勢や能力の欠如を感じる。そのため、私は学生と向き合う時間を大切にしてきた。すなわち、授業時間以外での学びも大切な場ととらえ、課外の活動や、食堂などで出会ったときの些細な会話も学びにつながり、何かの動機づけになる可能性があると考えてきたのである。

3. 教育の方法･戦略

上記の教育の目的・理念を具現化するために、私が教育で最も大切にしていることは、わかりやすくシンプルに伝えることである。すなわち、担当する全ての講義・実験に通じるものであるが、各講義や実験の冒頭で学びの目的と筋道を明確にし、ポイントを伝えること、さらに、講義・実験の終わりにまとめを行うことである。また、板書やスライドもわかりやすさを重視し、時間が経過しても何を学んだのか、何が大切なのかがわかるような構成を心がけている。具体的には、

1）講義では

1．講義計画を毎回提示し、この講義が学ぶべき有機化学の内容のどの位置にあるのか、ゴールがどこにあるのかを明示している。
2．授業中はあまり規律に制限をかけず、隣と話すことなどにより学習をより深いものになるようにし、知識の共有が行われやすくしている。
3．授業は講義形式で行い、スライドを投影して進めている。このスライドは、出来るだけシンプルなものとし、イラストやアニメーションを多用することで、学生に苦手意識が芽生えないように配慮している。
4．講義のテーマによっては、スライドとともに黒板での板書を行い、より細かく解説することで学生の理解を促すようにしている。
5．分子模型を多用し、化合物の空間的な形の理解の一助になるよう努めている。
6．毎回の講義の終わりには、その日の振り返りを行い、何が重要であったかを再確認している。

2）実習では

1．化学系の実習では危険な試薬を使用することが度々あるので、実習初日に実習を行う上での安全教育を必ず行っている
2．実習の冒頭で実習計画を提示し、その日の実習内容を明確にしている。
3．実習中は、積極的に学生とのコミュニケーションに努め、質問しやすい雰囲気を作るように努めている。
4．各実習で行っている内容が、講義のどの部分に当たるのかを明確にしている。

3）普段から

常に話しやすい雰囲気を作るようにし、間違った意見でも言いやすいようにすることを心掛けている。人数の多くない大学である利点を生かし、様々な学生に声をかけていくことを常に考えている。

4. 学習成果

1）学生からの授業評価アンケートについて

1．学生からの授業評価アンケートでは、比較的高い評価を得ている。また、記入の際には、自由記述欄への記載をお願いして、いい点・悪い点についての具体的な意見を得ることで、次年度以降の教育改善につなげることができている。

2．学生からの授業評価アンケートの内、自由記述欄の意見では、「分かりやすい授業だった」との評価を複数の学生から得ることができた。

2）教育活動について

1．講義内容についての質問が増加した。

2．学内の FD 活動に積極的に参加することで、教育改善についての知識も身につき、それを自身の教育活動に反映させることができている。

5. 改善のための努力

授業評価アンケートでは、一部の学生が「授業の内容が難しい」という評価を受けた。これは薬学の有機化学が難易度・量ともに膨大、かつ、大学 6 年間の初期での授業となることに原因があると考える。

1）講義の難易度

1．国家試験や CBT を意識した講義内容として、よりシンプルな授業を心がける。

2．講義時間だけでなく、隙間時間を利用した学びを展開していく。

2）講義に使用する教材

1．視覚に訴えるような教材の改善に取り組む。

6. 今後の目標

1）短期の目標

現在の講義はスライド投影で進めているが、学生がノートを取ることも重要であると考える。しかし現状は、配布資料にメモを取る程度のであり、積極的にノートを活用するものは少ない。そこで、今後の講義は板書を多く取り入れ、積極的にノートを取ることを推奨し、試験前にはノートを活用することを促す。

2）長期の目標

現在講義時使用の教科書は、自身が編著の「薬学有機化学」であるが、内容的にやや難しいところがある。今後は、よりシンプルな教科書作成を目指す。